

# 横芝の碑 (その一〇〇)

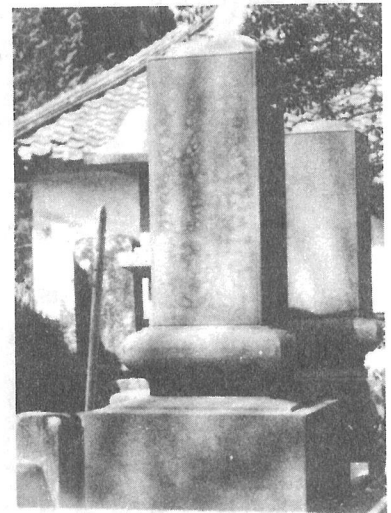
## 伊能忠敬の二子により 創設された 佐原神保家の墓碑



▲観福寺門前に建てられた  
案内版 (写真②)

日本陸地測量の草分けとして知られる、伊能忠敬先生は「自分の故郷は神保家の存在する大総村小堤の地である」と、常に考えておられ、その起居や動作にも其の様子が読みとれた、ということです。これを裏付けるように、先生の二子である玄次郎という人が、父の

旧姓である神保性を名乗って、佐原に一家を創設したという、碑文を刻んだ墓石が佐原の郊外に残っています。佐原市の郊外(横芝から、多古及び栗源を経て佐原に入る街道の畔)に、寛平九年(八九年)に創建されたという牧野山観福寺とい



▲神保玄次郎の誌銘  
が刻まれた墓石  
(写真①)

う寺があり、伊能家(忠敬先生一家)累代の墓所になっております。その中に、伊能勘解由忠敬之二子神保玄次郎之墓、と刻まれた立派な墓石が建っています。墓石の側面に刻まれた誌銘には「君諱敬慎字郷儀神保氏称玄次郎伊能勘解由忠敬之二子他、忠敬原姓神保氏善書且精於算数之術故受業者至数百人、天保九年戊戌十月二十五日歿、齡五十有三、門人相謀立石以職其墓、父忠敬山武郡大綱(総)小提(堤)寄神保家当町伊能三郎右工門家養子縁組玄次郎其二子他故忠敬之原姓以神保一家創立昭和十年九月 五代当主やすとあります。

冷たい石に刻まれた誌銘の一字一字を反復しながら読みとっておりますと、忠敬先生と大総村小堤の縁がひしひしと感じられ、その中に、海保漁村先生誕生の地が、県の趾跡としての指定を受けた祝賀記念会の折、県から来町された

或先生が「この場所は、単に漁村先生が誕生された、ということだけではなく、父恭斎の訓陶宜敷を得て、あの幕末の大需者となるべき要素が培かれた場所であることを忘れてはいけない」と話され、また、「北清水の地名が刻まれた漁村先生の墓碑が或寺に建っていると聞いたので探しまわったが、遂に発見できなかった」と残念がっておられたことが思い出され、神保玄次郎の墓が建っているのは確かに佐原市ではあります、其処には忠敬先生の御遺志が大総村小堤の神保家が再現されて既に五代目を迎えている、ということも横芝町の皆さんに知って頂きたいと思いましたが、敢えて佐原市の寺院からの取材をご紹介しますました。

た案内板です。周辺には、伊能家累代の墓石や碑が、八十基余りも建っています。ここは相当高台になっていて、丁度、小堤の日吉台に似たたたずまいを見せていますが、先生が日本全国実測に当って、故郷日吉台を基点としたと言われ、これについては、図南点、或いは三角点と見られる石標が現存しています。先生は其後、エゾ地(北海道)まで測量の歩を踏み入れておられます折柄、北方領土返還促進の運動が展開されようとしております。私達は改めて、郷土の先覚者の偉業に対しても本来の日本の領土、ハボマイ、シコタンノ早期返還運動に邁進すべきではないでしょうか。



横芝町文化財審議会委員  
小沢春光氏寄稿